

論 文

看護基礎教育における臨床判断に関する文献検討

¹片山 由加里 ¹木村 洋子¹同志社女子大学・看護学部・看護学科・准教授

Literature Review on Clinical Judgment in Basic Nursing Education

¹KATAYAMA Yukari ¹KIMURA Yoko¹Department of Nursing, Faculty of Nursing,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Associate professor

I. はじめに

看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（厚生労働省、2020）において、「科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う」という看護師教育の基本的な考えが各教育分野に対する留意点とともに示され、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の第5次改正に基づいた新カリキュラムが2022年入学生から開始されている。これは、急性期医療や在宅医療の質的量的ニーズが高まる社会において、医師や多職種との連携を図りながらも自律的に判断して行動できる看護師の活躍が不可欠となっていることを背景としている（池西、2020）。

米国においても、看護師資格試験の出題機関である National Council of State Board of Nursing (NCSBN) が、2023年から受験者の臨床判断力を評価することを発表しており、看護師の臨床判断能力の質保証が図られる。しかし、「臨床判断 (Clinical Judgment)」の概念にはまだ一致した見解はなく、看護学生の臨床判断力の育成は模索段階にある（細田、2021）。さらに、2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、実習教育の変更を余儀なくされることとなったが、本邦にあっては、病院や地域のあらゆる臨床の場から看護学生が排除されることとなり、看護基礎教育は大きなダメージを受けている（日本看護系大学協議会、2022）。

そこで、本研究では、本邦の看護基礎教育におけるこれまでの臨床判断の研究論文を検討することで、今後の教育的示唆を得ることを目的とする。

II. 方法

1. 対象論文

2021年までに発表された研究論文を対象とした。医中誌 Web（医学中央雑誌刊行会）より、キーワードを「臨床判断」、「看護基礎教育」、「学生」とし、絞り込み条件を、「原著論文」、「看護」とした。得られた41件のうち、英文で発表されている2件と「臨床判断」の用語が掲載されていない4件を除外した35件を検討した。なお、看護基礎教育の実際を広く検討するため、公表されている研究論文のエビデンスレベルについては評価していない。

2. 分析方法

まず、研究動向として、発行年、「臨床判断」の用語の出現場所、目的別にみた研究デザイン、「臨床判断」の概念の使用状態、「臨床判断」に関連して使用されている他の概念について検討した。次いで、研究内容として、研究デザイン別に主題や内容を検討した。教育評価研究については、学生の臨床判断を測定する研究において、領域、校種、学年について検討した。これらは、2名の看護学研究者によって検討した。

III. 結果

1. 研究動向（表1）

1) 発行年

対象とした35論文の発行年は、1996年1件、2002年2件、2003年1件、2005年1件、2007年1件、2008年2件、2010

年1件、2011年2件、2012年3件、2014年3件、2015年3件、2016年2件、2017年4件、2019年1件、2020年7件、2021年1件であった。

2) 研究デザイン

対象とした35論文の研究デザインは、目的別にみて、教育評価研究24件(68.6%)、文献研究5件(14.3%)、探索的記述研究3件(8.6%)、その他(教材開発研究、事例研究)3件(8.6%)であった。

3) 「臨床判断」の用語の出現場所

対象とした35論文の「臨床判断」の用語の出現場所については、「研究目的」に看護基礎教育の「臨床判断」の記載があり、「結論」が示されている論文が16件(45.7%)であり、「研究目的」に看護基礎教育の「臨床判断」は記載されていないが、「結論」には記載されている論文が7件(20.0%)であった。なお、ここには、文章中に「臨床判断」の記載が直接なくとも、「研究目的」や「研究枠組み」での記載に従って「臨床判断」を意味している論文を含めた。さらに、また、文献リストを除いて、「研究目的」や「結論」以外に記載されている論文が12件(34.3%)であった。

4) 「臨床判断」の概念の使用状態

対象とした35論文の「臨床判断」の概念の使用状態として、「臨床判断」の概念に触れている論文は14件(40.0%)であり、触れていない論文が21件(60.0%)であった。「臨床判断」の概念に触れている14件のうち、10件はTannerの知見を用いており、その他は、Bennerが6件、Corcoranが5件、Lasaterが4件であった(重複あり)。また、「臨床判断」の用語の定義を示す研究は11件にみられた。「臨床判断」の定義について、先行研究の知見を用いずに独自に言及している論文はみられなかった。

5) 「臨床判断」に関連して使用されている概念

「臨床判断」に関連して使用されている看護教育上の概念について、「臨床判断」が記載されている文章や図表から論文全体を踏まえて確認した。「シミュレーション教育」、「実習」、「演習」といった授業形態や、「救急看護」、「日常生活動作」といった看護の範囲を除き、学習の方法や能力に関連する主な概念として、「看護実践」、「高度看護実践」、「実践力」、「臨床実践力」などの「看護実践」に関するものが15件、「看護過程」に関するものが8件、「アセスメント」に関するものが6件、「看護技術」が3件、その他「問

題解決」、「クリティカルシンキング」、「コミュニケーション」、「看護上の判断」などがみられた(重複あり)。

2. 研究内容(表2)

研究デザイン別に主題や内容を検討した。教育評価研究24件において、学生の臨床判断が「研究目的」に含まれている論文は11件であった。11件のうち、学生の臨床判断力を評価する研究が5件、臨床判断の教育方法を評価する論文が3件、実習の評価において学生の臨床判断の実際を明らかにする論文が3件であった。

学生の臨床判断力を評価する研究は、シミュレーション教育を行って学生の臨床判断力を評価する論文として、「助産診断技術論演習においてシミュレーション教育を受けた学生に対する効果の検討」(No.28)、シミュレーション教育後と実習後に学生の臨床判断力を評価する論文として、「周手術期看護に関するシナリオ型シミュレーション演習を実施し、演習の臨床判断力育成の効果を明らかにする」(No.19)があった。OSCEを行って学生の臨床判断力を評価する論文として、「OSCEを導入した演習を行い、アセスメント能力や臨床判断能力の向上について効果を調べる」(No.4)、「卒業時OSCEに取り組み、明確になった卒業生の看護実践能力の課題を整理する」(No.7)があった。演習を行って学生の臨床判断力を評価する論文として、「日常生活動作援助演習を通して、学生の臨床判断能力の到達レベルとその実態を明らかにする」(No.12)があった。

臨床判断の教育方法を評価する論文は、演習後と実習前に評価する、「臨床判断力を育てることに対し看護過程の思考と方法が活用できる教育方法を再考する」(No.23)があり、実習前のシミュレーション教育によって評価する、「臨床実習に向けたレディネスと臨床判断能力の向上を図るために、シナリオに基づくモデル人形を用いたシミュレーション学習法を看護学生に実施し、ペーパーペイシエント学習法との比較において効果を検討する」(No.11)があり、臨床事例を用いた教育を受けた後の実習前に評価する、「PBL(問題基盤型学習)教育によるクリティカルシンキングと臨床判断能力を評価する」(No.2)があった。

実習の評価において学生の臨床判断の実際を明らかにする論文として、「老年看護学実習において看護学生が『移乗・移動』援助を行う際の安全や残存機能の視点の臨床判断能力の実態」(No.21)、「老年看護学実習における排泄ケア場面の学生の臨床判断の特徴」(No.6)、「学生の臨床判断に影響を及ぼしていると考えられる学生の思い」(No.1)があった。

表1 「臨床判断」の記載があった35論文（～2021年）

論文 No.	論文	研究デザイン (目的別)	「臨床判断」概念の記載			「臨床判断」に関連して 用いられている 主な概念*3
			出現場所*1	出典	定義*2	
1	塩月ぬい子他 (1996) : 学生の臨床判断に影響する因子、学生の思いに焦点をあてて、愛媛県立医療技術短期大学紀要、9、21-30.	教育評価研究	研究目的	Corcoran	あり	学生の特性、 学生-患者関係、環境
2	大西潤子他 (2002) : 問題基盤型学習 (PBL-tutorial) 教育の効果 PBL 教育2年後のクリティカルシンキングと臨床判断能力に関する学生の自己評価、日本赤十字武蔵野短期大学紀要、15、53-58.	教育評価研究	研究目的	なし	なし	クリティカルシンキング、 問題基盤型学習
3	鈴木のリ子他 (2002) : 臨地実習での看護診断過程における学生の困難とその原因、日本看護学会誌、12 (1)、11-17.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	看護診断過程
4	宮園真美他 (2003) : 臨床判断能力向上をめざした実習前看護技術演習の取り組み、九州厚生年金看護専門学校紀要、4、63-76.	教育評価研究	研究目的	なし	なし	看護技術、 アセスメント能力
5	藤内美保他 (2005) : 看護師の臨床判断に関する文献的研究、臨床判断の要素および熟練度の特徴、日本職業・災害医学会誌、53 (4)、213-219.	文献研究	目的、結論以外	Benner Corcoran	あり	看護師の熟練度
6	今井宏美他 (2007) : 老年看護実習における学生の臨床判断の特徴、排泄ケア場面の分析、千葉県立衛生短期大学紀要、26 (1)、105-109.	教育評価研究	研究目的	Tanner	あり	看護実践能力、看護過程、 チームケア
7	山本絵奈 (2008) : 看護実践能力の評価、平成19年度卒業時 OSCE (客観的臨床判断能力試験) を実施して、京都中央看護保健専門学校紀要、15、47-54.	教育評価研究	研究目的	なし	なし	看護実践能力
8	本村美恵 (2008) : 看護の臨床判断における「クリティカルシンキング」の概念とその構造、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録、33、201-208.	事例研究	研究目的	なし	なし	看護実践、クリティカル シンキング
9	深田順子他 (2010) : 看護基礎教育における周術期の臨床判断力の向上を目指した教育実践、愛知県立看護学部紀要、16、31-39.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	フィジカルアセスメント、 事実に基づく推論
10	山崎美恵子他 (2011) : 看護基礎教育課程における学生の看護実践能力習得の課題に関する報告、高知学園短期大学紀要、41、73-80.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	看護実践能力、問題解決 能力、マネジメント能力
11	相野さとこ他 (2011) : 終末期看護場面におけるシミュレーション学習法を用いた実習前の学生のレディネス向上と臨床判断の育成に関する効果の検討の試み、日本看護学会誌、21 (2)、45-56.	教育評価研究	研究目的	なし	なし	倫理的判断、行動と態度、 満足感、コミュニケーション スキル、臨床場面の イメージ化
12	新木真理子他 (2012) : 日常生活動作援助における看護学生の臨床判断能力、学内演習を通して、西南女学院大学紀要、16、1-14.	教育評価研究	研究目的	Tanner Lasater	あり	アセスメント能力
13	塩見和子他 (2012) : 成人看護学実習 A における学生の学びと指導の課題、International Nursing Care Research、11 (4)、173-181.	教育評価研究	結論	Corcoran	あり	看護実践、看護過程
14	木村誠子他 (2012) : 看護実践能力を育成する教育方法と評価の文献的考察、広島国際大学看護学ジャーナル、9 (1)、25-34.	文献研究	目的、結論以外	なし	なし	看護実践、看護技術
15	西谷千恵他 (2014) : 成人看護学急性期実習の現状と課題、中京学院大学看護学部紀要、4 (1)、39-50.	教育評価研究	結論	なし	なし	看護実践、看護過程
16	岩月すみ江他 (2014) : シャドイングと看護実践を反復する統合実習での看護学生の学び、札幌保健医療大学紀要、1、43-54.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	看護実践能力、 観察力と判断力
17	岡崎美智子他 (2014) : 看護過程を基盤として臨床判断力を育成する学習支援システム開発の評価、日本医療情報学会看護学大会論文集、15、178-180.	教材開発研究	研究目的	なし	なし	看護過程
18	谷多江子他 (2015) : 精神科看護師のシャドウイングを通しての学生の学び、日本看護学会誌、24 (3)、75-88.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	コミュニケーション、 アセスメント
19	山内栄子他 (2015) : 看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討、大阪医科大学看護研究雑誌、5、76-86.	教育評価研究	研究目的	Corcoran, Tanner, Benner	あり	看護実践力
20	田代順子他 (2015) : 諸外国の看護学部生・大学院生への臨床判断力強化学習支援法とその成果、文献レビュー、聖路加国際大学紀要、1、20-28.	文献研究	研究目的	Tanner Lasater	なし	高度看護実践
21	平川美和子他 (2016) : 老年看護学実習における学生の臨床判断能力の分析、移乗・移動動作に焦点をあてて、弘前医療福祉大学紀要、7 (1)、39-47.	教育評価研究	研究目的	Tanner Lasater	なし	アセスメント
22	織井優貴子 (2016) : 看護基礎教育におけるシミュレーション教育プログラム導入の試み、日本シミュレーション医療教育学会誌、4、54-63.	教育評価研究	結論	なし	なし	トレーニング、自信
23	守谷智江 (2017) : 臨床判断力を育てる看護過程展開技術の教育方法の検討、玉野総合医療専門学校紀要、11、1-11.	教育評価研究	研究目的	Tanner	あり	看護過程の思考、 看護実践
24	松澤明美他 (2017) : 看護基礎教育課程における小児看護学シミュレーション教育の課題、文献レビュー、日本看護学会誌、37、390-398.	文献研究	目的、結論以外	なし	なし	思考・判断・行動
25	鈴木真由美他 (2017) : 基礎看護学領域のシミュレーション演習における学生の体験と学びの様相、飯田女子短期大学紀要、34、47-67.	質的記述研究	目的、結論以外	なし	なし	問題解決型思考、実践力
26	大谷則子他 (2017) : 看護師の臨床判断に関する検討、F 看護師の看護実践の記述より、淑徳大学看護栄養学部紀要、9、31-40.	事例研究	研究目的	Corcoran, Tanner, Benner	あり	看護過程
27	金さやか他 (2019) : 看護基礎教育における多重課題演習の評価、保健医療福祉科学、8、24-31.	教育評価研究	結論	なし	なし	臨床実践能力、多重課題
28	牛越幸子 (2020) : 4年生の助産師教育におけるシミュレーション教育の効果と課題、神戸女子大学看護学部紀要、5、37-42.	教育評価研究	研究目的	Tanner	あり	実践能力、看護技術
29	岩本里美他 (2020) : 周術期看護のシミュレーション演習における看護実践能力の育成を目指す教育方法の検討、事前学習とリフレクションからの分析、旭川大学保健福祉学部研究紀要、12、19-23.	教育評価研究	結論	なし	なし	看護実践能力、 主体的学習行動
30	山口隆明他 (2020) : 3年生の看護技術演習における課題、愛知県立総合看護専門学校紀要、13、9-17.	教育評価研究	結論	なし	なし	アセスメント、看護技術
31	東出郁子他 (2020) : 小児看護学の評価と新カリキュラムに向けての検討、神奈川県立よこはま看護専門学校紀要、12、22-25.	教育評価研究	結論	なし	あり	看護過程、カリキュラム
32	飛永真由美他 (2020) : 看護学生がとらえた初療室における救急看護、中部大学生命健康科学研究所紀要、16、31-39.	教育評価研究	目的、結論以外	なし	なし	臨床推論
33	阿部オリエ (2020) : 臨地実習における「学生の看護上の判断」の概念分析、日本看護学会誌、40、465-473.	文献研究	目的、結論以外	Benner Tanner	なし	看護上の判断
34	岡田摩理 (2020) : 領域別看護学実習の経験の積み重ねにより臨床判断に必要な思考方法を学生が獲得していくプロセス、日本看護学会誌、29 (3)、1-13.	質的記述研究	研究目的	Benner Tanner	あり	思考過程
35	阿部オリエ (2021) : 成人看護学 (急性期) 実習における看護系大学生の看護上の判断力育成に向けた臨地実習指導者の関わりのプロセス、「ケア実施に伴う決定」に着目して、日本赤十字看護学会誌、22 (1)、29-40.	質的記述研究	目的、結論以外	Benner Lasater	なし	看護上の判断

* 1 : 文献リストを除く、* 2 : 「臨床判断 (能) 力」も含む、* 3 「臨床判断 (能) 力」を除く

表2 教育評価研究デザイン24論文

論文 No.	著者 (発表年)	「臨床判断」の出現場所 「研究目的」に記載がある論文は、その目的	授業形態	学校・学年	領域	学生の臨床判断 の評価
28	牛越 (2020)		シミュレーション教育	A大学4年次	助産学	あり
19	山内他 (2015)		シミュレーション教育後と実習	A大学3年次	急性期成人看護学	あり
4	宮園他 (2003)	学生の臨床判断力を 評価	OSCE	A校3年次	前期実習後6領域	なし
7	山本 (2008)		OSCE	A校3年次	統合	なし
12	新木他 (2012)	「研究目的」に 「臨床判断」 の記載がある	演習	A大学3年次	成人老人看護学	あり
11	相野他 (2011)		シミュレーション教育	A大学3年次	成人看護学終末期看護	あり
2	大西他 (2002)		臨床判断の教育方法 を評価	実習前	短期大学2校の3年次	3年次実習前
23	守谷 (2017)		演習後と実習後	A校2年間の2年次	看護過程展開技術	あり
1	塩月他 (1996)	実習の評価において 学生の臨床判断の 実際を明らかにする	実習	A短大2・3年次	成人・精神看護学	なし
6	今井他 (2007)		実習	A短大年次不明	老年看護学	なし
21	平川他 (2016)		実習	2校の2年次	老年看護学	あり
22	織井 (2016)		シミュレーション教育	A大学4年次	統合	なし
27	金他 (2019)		シミュレーション教育	A大学4年次	統合	なし
29	岩本他 (2020)		シミュレーション教育	A大学2年次	周術期看護	なし
30	山口他 (2020)	「結論」に「臨床判断」の記載がある	シミュレーション教育	A校3年次	卒業前	なし
13	塩見他 (2012)		実習	A短大3年次	成人看護学	なし
15	西谷他 (2014)		実習	A大学の領域実習科目	成人看護学急性期	なし
31	東出他 (2020)		領域内科目	A校領域内科目	小児看護学	なし
3	鈴木他 (2002)		実習初日の演習	A校2年次	成人老年看護学実習	なし
9	深田他 (2010)		実習	A大学3年次	成人看護学周術期	なし
16	岩月他 (2014)	「研究目的」「結論」以外に 「臨床判断」の記載がある (文献リストは除く)	実習	A校3年次	統合実習	なし
18	谷他 (2015)		実習	A大学3～4年次	精神看護学	なし
32	飛永他 (2020)		実習	A校3年次	成人急性期看護学	なし
10	山崎他 (2011)		7領域実習	A短大3年次	7領域看護学	なし

これらの、学生の臨床判断が「研究目的」に含まれている教育評価研究の論文11件には、学生の臨床判断を測定する研究がみられた。測定方法としては、Tannerの臨床判断モデルに基づき、助産領域において質問項目を独自に作成した研究(No.28)、Lasaterの臨床判断ルーブリックに基づき、老年看護の移乗・移動の援助についての学生の記述を振り分けた研究(No.21)、Lasaterの臨床判断ルーブリックの枠組みにそって、ADL援助について学生に記述させて分析した研究(No.12)、周手術期看護の質問項目を独自に作成し、因子分析によって臨床判断に関する要素を抽出している研究(No.19)、終末期看護場面のシミュレーション後のデブリーフィングで話し合われた内容を記述したものを臨床判断の経験として帰納的にまとめた研究(No.11)があった。

教育評価研究25件において、学生の臨床判断が「研究目的」に含まれていないが、「結論」において含まれている論文7件においては、7件すべてに、今後の教育の課題として、学生の臨床判断力の育成が必要であることが述べられていた。教育内容は、シミュレーション教育における評価が4件であり、「周手術期看護のシミュレーション演習における事前学習の取り組みとリフレクションを分析して学習効果や課題を明らかにし、看護実践能力の育成を目指

す教育方法を検討する」(No.29)、「臨床実践能力向上を目的とした科目において多重課題演習を実施し評価する」(No.27)、「看護基礎教育における人体型シミュレータを用いたシミュレーション教育の有用性を検討する」(No.22)、「過去5年間の看護技術演習の評価結果を分析し、看護技術教育における課題を明確にする」(No.30)であった。さらに、実習における評価が2件であり、「成人看護学急性期実習の現状と今後の課題を明らかにする」(No.15)、「成人看護学実習終了後の実習目標における学生の学びを明らかにし、実習指導の課題と示唆を得る」(No.13)であった。また、領域内科目の評価として、「小児看護学の科目・単元の構成及び学習内容を評価する」(No.31)があった。

対象論文の領域は、統合実習や卒業時など領域を統合した最終学年が7件、急性期成人看護学が3件、周術期成人看護学が2件、成人看護学終末期看護が1件、成人看護学が1件、成人老年看護学が2件、老年看護学が2件、成人・精神看護学が1件、精神看護学が1件、小児看護学が1件、3年次実習前が1件、看護過程の展開技術実習前後が1件、助産学が1件であった。

対象論文の学校と学年は、大学4年次生が3件、大学3年次生から4年次生にまたがるものが1件、大学3年次生が4件、大学2年次生が1件、短期大学3年次生が3件、

短期大学2年次生および3年次生が1件、専門学校3年次生が5件、専門学校2年次生が3件、専門学校全学年が1件、学年次不明が大学と短期大学にそれぞれ1件であった。

文献研究5件については、国内を対象としたものとして、「臨地実習における学生の『看護上の判断』の概念」(No.33)、「看護基礎教育における看護実践能力の育成」(No.14)、「看護師の臨床判断」(No.5)があり、海外の英論文も対象としたものとして、「シミュレーションによる小児看護学教育」(No.24)、「高度実践看護師育成のための臨床判断力強化」(No.20)を主題としていた。

探索的記述研究3件については、「臨地実習指導者が、学生が行う受け持ち患者への『ケア実施に伴う決定』をどのように捉え、学生に関わっているのか」(No.35)、「領域別看護学実習の経験を積み重ねていく中で、学生はどのように臨床判断に必要となる思考方法を獲得していくのか、獲得していく過程に影響するものは何か」(No.34)、「基礎看護学領域のシミュレーション演習において1年次生がどのような体験をし、何を学びとしているのか」(No.25)を主題としていた。

IV. 考察

本邦において2021年度までに発表された看護学生の「臨床判断」についての記述がある研究論文は、40件弱であり、近年にかけて微増しているものの毎年一桁台と非常に少なかった。また、「研究目的」に学生の臨床判断が明示されている論文はさらに限られていた。「研究目的」には明示されていないが、「結果」、「考察」、「結論」等に記載されている論文がみられ、看護基礎教育における「臨床判断」の存在が示される。本邦では、研究論文の少なさに反して教育が先行しているといえる。

「臨床判断」の概念は、Tanner、Benner、Lasater、Corcoranといった米国の看護研究者の知見によって説明されていたが、「臨床判断」の概念について言及していない論文も多い。「臨床」と称するこの用語が「臨床」現場で平易に解釈され、学問的でない汎用性の高さが影響していると考えられる。また、「Clinical」の用語が持つ「客観的な・分析的な・冷静な」という要素が、看護実践で必要となる「主観」や「直観」、「感情」といった要素と統合がしにくいことも考えられる。「臨床判断」に関連して使用されている概念には、「看護実践」を始め多くの概念がみられたが、「臨床判断」の概念に対して、「看護実践」や「問題解決」は外延、「看護過程」や「アセスメント」は

外延または前提、「看護技術」や「コミュニケーション」は内包または帰結として位置づくといえる。看護学生の臨床判断は看護実践力の一部となって、他の概念と関連して習得されると考えられる。

看護基礎教育における「臨床判断」についての研究は、「講義」形態のものではなく、「演習」、「実習」、「シミュレーション学習」が占め、専門学校においても大学においても臨地実習の経験の進む3年次や4年次といった高年次が殆どであった。一方、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインには、専門分野「基礎看護学」における「臨床判断能力」の学習についても触れ、「シミュレーションなどを活用した演習」が提示されている(厚生労働省、2020)。看護師の臨床判断力の向上には臨床経験が重要であるが、低年次からの教育実践が求められていることから、初学者の教育に有効な理論的枠組みが必要となる。2022年に入って発表されている研究には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う実習の代替や補強に関する看護学生の「臨床判断」の論文がみられ始めている(中村・宇野・飯澤、他、2022；縄・佐居・樋勝、他、2022；近藤・白井・橋本、他、2022)。ここからは、看護学生の「臨床判断」の学習の機会がこれまでは実習場にあったことと、そして、これからは実習上に加えて学内での演習においても有用であることが窺える。さらに、阿部は、「学生の臨床判断に看護師の臨床判断の定義がそのまま引用されていたり、判断の概念を明確にしないまま研究が進められている現状があるため、まず、臨地実習における学生の看護上の判断を明確にする必要がある」と述べており(阿部、2021)、現場での経験的な学びや実習指導に委ねられている不確実性も現れてきていると考えられる。

学生の臨床判断力の育成には、何をどのように学修させるのかという、看護基礎教育全体を見通した方法論の探究が必要である。検討した論文において看護学生の臨床判断力の育成やその測定方法についての試みがあったが、特定領域において独自に作成されており、カリキュラム全体や基礎看護学、統合分野といった共通の分野に適用されるものではなかった。看護学生は、大量の知識・技術・態度を習得する時期であり、それらが臨床判断力に連結される必要がある。看護職を対象とした文献や海外での看護学生の「臨床判断」についての文献は増加しており、各校の実践例も数多く紹介されている(片山・富安・根岸、他、2022)。本邦においては新カリキュラムの学年進行が進んでいくことから、看護学生の臨床判断力の育成に向けては、カリキュラムと関連づけた研究や、看護基礎教育の各

学年で共通して使用できる評価ツールの開発研究が求められる。

V. 結論

1. 看護基礎教育における「臨床判断」の論文は非常に少ない。発表されている論文には、シミュレーション教育、演習、実習を用いた教育評価研究が多くみられた。また、「臨床判断」の概念には、Tanner、Benner、Lasater、Corcoranの知見が用いられ、看護実践力やアセスメントとの関連がみられた。

2. 学生の臨床判断力の育成に向けては、看護基礎教育全体を見通した方法論の探究が必要であり、カリキュラムと関連づけた研究や評価ツールの開発研究が求められる。

縄秀志、佐居由美、樋勝彩子、他 (2022) : 臨床実習における困難から楽しさの発見までを疑似体験できるオンライン教材の開発 2020年度教育改革推進事業報告、聖路加国際大学紀要、8、121-126.

日本看護系大学協議会 (2022) : 新たな感染症の時代の看護学教育検討特別ワーキング2021年度答申書.

引用文献

阿部オリエ (2021) : 成人看護学 (急性期) 実習における看護系大学生の看護上の判断力育成に向けた臨地実習指導者の関わりのプロセス「ケア実施に伴う決定」に着目して、日本赤十字看護学会誌、22 (1)、29-40.

細田泰子 (2022) : 臨床判断能力を拓く学習環境、看護展望、47 (3)、10-16.

池西静江 (2020) : なぜ、臨床判断能力か、看護教育、61 (2)、0098-0106.

片山由加里、富安眞理、根岸まゆみ他 (2022) : 学生の臨床判断力を伸ばすための手法と、臨床判断能力育成に向けた到達目標、看護展望、47 (3)、17-23.

近藤香苗、白井かおり、橋本亜弓他 (2022) : 高齢者に対する活動と休息の援助における臨床判断力の獲得を意図した学習プログラム、日本赤十字豊田看護大学紀要、17 (1)、17-24.

厚生労働省 (2020) : 「看護師等養成所に関する指導ガイドラインについて」の一部改正について、

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T201105G0040.pdf> (最終アクセス : 2022、8、15)

National Council of State Board of Nursing (2022) : Next Generation NCLEX Project.

<https://www.ncsbn.org/next-generation-nclex.htm> (最終アクセス : 2022、8、15)

中村円、宇野智子、飯澤良祐他 (2022) : COVID-19感染拡大により遠隔代理実践を導入した看護技術総合演習に関する教育実践報告、札幌保健科学雑誌、11、99-103.